



液化水素運搬船の安全要件に関する国際ワークショップを IMO で開催
 ～IMO 小委員会での暫定勧告案の確定に向けて理解の促進を～

将来の水素エネルギーの実用化を目指して、水素サプライチェーンの構築が模索されており、その一つとして、オーストラリアの未利用エネルギーである褐炭から水素を精製し、日本に大量輸送する計画が進められています。その計画の中では、液化水素のばら積み船による大量輸送が予定されていますが、現在、こうした船は一隻もなく、またそれに係る安全基準も定まっていません。

こうした状況のもと、国土交通省はオーストラリアと協力しつつ、平成 27 年 9 月に国際海事機関（IMO）の小委員会の一つである貨物運送小委員会の第 2 回会合（CCC 2）へ、世界初の液化水素運搬船の安全基準案の提出を行い、各国の意見を広く取り入れるべく、通信部会^{*1}（CG）の設置を求めました。CCC 2 ではオーストラリアと日本の提案が認められ、液化水素運搬船の安全基準を検討する CG（幹事：当所太田国際連携センター長）が設置され、1 年間、オーストラリアと日本が共同提案した安全基準案を基に、議論が行われました。

平成 28 年 9 月 5 日から開催された第 3 回貨物運送小委員会（CCC 3）では、昨年設置の CG での検討結果の報告・審議が行われました。CCC 3 に先立ち、2020 年に予定されている液化水素運搬船のパイロット船の実証実験^{*2}に向けて各国の理解を広く得るため、国土交通省海事局と海上技術安全研究所は共同で、9 月 2 日に「液化水素運搬船の安全要件に関する国際ワークショップ」を開催しました。

今回のワークショップでは、小委員会開催の前週にも関わらず、11 カ国および 5 の国際機関・団体から約 60 名の参加が得られました。冒頭、国土交通省海事局の伊藤真澄検査測度課危険物輸送対策室長が開会あいさつを述べた後、オーストラリアビクトリア州政府の Ms. S. Gibson によるビクトリア州にとっての褐炭利用の重要性のプレゼンに続き、船舶設計における安全対策、船舶運航における安全のための検討事項、CG の検討結果の報告等、合計 5 つのプレゼンテーションが行われました。最後に、オーストラリア海事安全局船舶安全課長の Mr. A. Schultz-Altman の閉会あいさつをもってワークショップが締めくくられました。各プレゼンテーションに対しては、活発な質疑があり、液化水素運搬船の暫定安全基準策定への各国の関心の高さが伺えました。

^{*1} 通信部会（Correspondence Group）は、電子メールをベースに検討を行う検討部会です。

^{*2} 実証実験を行うパイロット船は、2020 年の完工を目標としており、完成後、荷役機器等の試験、長距離輸送実証試験、積荷・揚荷等の習熟オペレーション等を実施する予定です。



開会あいさつを行う国土交通省 伊藤 氏



CG 報告を行う太田センター長



液化水素運搬船の安全要件に関する国際ワークショップ プログラム

開催日時： 平成 28 年 9 月 2 日 10:00～13:00
場 所： 国際海事機関（ロンドン）
主 催： 国土交通省海事局、海上技術安全研究所
司 会： 在英国日本国大使館 一等書記官 深石晃氏

開会あいさつ

国土交通省 海事局 検査測度課 危険物輸送対策室長 伊藤真澄氏

豪州連邦ビクトリア州における水素エネルギーチェーンの重要性

オーストラリア ビクトリア州政府 ロンドンオフィス Ms. S. Gibson

船舶設計における安全対策

技術研究組合 CO₂フリー水素サプライチェーン推進機構 加賀谷博昭氏

パイロット船のリスク評価

日本海事協会 資源エネルギー部主管 西藤浩一氏

船舶運航における安全対策

技術研究組合 CO₂フリー水素サプライチェーン推進機構 Mr. A. Saeed

液化水素ばら積み運送の安全要件の作成のための CG の結果報告

海上技術安全研究所 国際連携センター長 太田進

閉会あいさつ

オーストラリア 海事安全局 船舶安全課長 Mr. A. Schultz-Altman